

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3370301214 | | |
| 法人名 | 社会員福祉法人 加茂光陽会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 杉宮 (ユニット共通) | | |
| 所在地 | 岡山県津山市杉宮820-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年3月9日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301214-00&PrefCd=33&VersionCd |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ライフサポート |
| 所在地 | 岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館 |
| 訪問調査日 | 平成27年3月13日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・建物周辺は森林や田園に囲まれて、静かな環境の中、皆さんがゆったりとして生活を送られている。散歩は毎日の日課とし、四季折々の季節を楽しみながら、地域の方々との触れ合いも増えて、落ち着いた生活環境の中に立地している。 ・健康管理の中で水分補給には配慮し、水分量のチェックにより体調不良にならないようにしている。 ・家族や地域の方から取れたての新鮮な野菜の差し入れて、旬の食事を食べて頂いている。 ・両ユニット間にあるテラスで外景を眺めながら、外気浴を楽しみ、利用者が交流することが出来る。 ・認知症の理解とサポートを推進している。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>開設9年になるこのホームの建物は、この土地にすっかり溶け込んだ風情がある。両棟をつなぐ共有のウッドテラスは、南側の風光明媚な自然を取り入れ、スペースも広く、日常の活動や納涼祭等にも活用され、このホームの売りとなっている。管理者は、平成24年よりケアマネージメントの改良に取り組み、利用者の担当職員と十分な連携を図りながら、全職員が中心となってマネージメントする体制を定着させている。そして、生活リハビリ、水分摂取、下剤調整、昼間の運動量の確保等に力を入れ、全員で実践することにより利用者一人ひとりが取り組みに意欲的になり、夜間問題行動が劇的に解消しているという良い事例を多く聞くことが出来た。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・全員出席し、原点に戻って意見を出し合った ・申し送り事、お互い気になった事をその日に話し合う | 法人全体の理念の共有と実践に併せ、ホーム独自の年間・月間目標を職員で作り、月毎に評価し、記録に残して次につなげていく作業を行っている。このことによりケアに対する職員個々の意識が向上し、利用者は落ち着いた生活が出来るようになってきている。 | 職員全員で作る目標の中に、利用者の楽しみや生活の満足度を高める為の目標設定と評価があると良いと思う。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・朝の玄関掃除時、登校中の小学生や付き添いの方と挨拶を交わす ・散歩中、畑で農作業の地域の方との挨拶や会話をする | 地区子供会との交流や運営推進会議を通じた愛育委員のボランティア訪問、職員と利用者が一緒に野菜市場で地元の人と交流する等でホームへの理解が深まり、野菜の差し入れがあったり、介護の電話相談がある等、反響が広がっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・ホーム内でボランティアによる歌や踊り、手品等地域の人にも楽しんでもらえるよう参加の呼びかけをしていく | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・会議の内容、出席しやすいテーマを考慮する ・出席者(家族)から意見、質問、要望等を聞き実践につなげるようにしている | ホームを理解してもらう事を目標に出席しやすいテーマを取り上げ、地域の人にも参加を呼び掛けている。推進委員を通じ、地域のボランティアとのつながりも出来、ホームに対する理解者の増強に繋がっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ・包括ケア会議に出席し、利用状況や現状、ケアサービスの取り組み等を話す | 毎回運営推進会議と包括ケア会議で接触しているので、ホームへの理解も深く、困難事例等にも迅速に対応してもらっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・夜間以外は鍵を掛けずに開放している ・身体拘束はしていない | 身体拘束、虐待共に勉強会、他所の研修会にも参加し、共通認識を持っている。日常のケアの中から生じる問題があればその都度話し合い、理解を深めるようにしている。 | 利用者の命を守るためにはやむを得ない禁止行為があっても、その行為に続く言葉を添える事の大切さを職員が共通認識を持って欲しい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・勉強会や職員会議、申し送り時に話し合っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・本人が必要としている事は活用出来るよう支援している | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・契約時に重要事項等の説明、その都度質問を受け対応している ・将来の事についても現時点での考えを聞かせてもらっている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・面会時等、気が付いた事は何でも話して頂けるよう配慮している | 「たより」で日々の様子を報告し、利用者の少しの変化でも早めに連絡をし、家族の意見や意向を踏まえた早期対応が可能になっている。家族から、職員の名札を着用して欲しいと要望があり、全員エプロンに記名しており、相談がしやすくなったと好評を得ている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・通常の勤務中で気づいた事はその場で、又は申し送り時、職員会議等で解決していく | 職員会議では、全職員の発言と欠席者には事前に書面で意見を届けることを義務付けている。又、法人本部の職員研修や個人面談があるので、意見や提案は届きやすく、ホームの環境整備は本部が受け持つ等の協力と理解が得られている。 | 職員の行動を見ていると利用者の身体介護に集中しているという感じがする。利用者の中に溶け込むような雰囲気になって欲しいと思う。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・全職員との面談(年2回)実施 ・推進会議への参加時、随時意見交換し職場環境の整備に努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・半年に1回の社内研修 ・職場会議等での情報交換・介護技術向上の仕組み ・社外研修への参加でスキルアップ | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・社外情報交換の場への参加機会を増やし、情報収集とネットワーク作り及び自己啓発の場としている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・本人の情報収集をし、ニーズを把握しケアプランにつなげるようにしている ・家族の協力を得ながら、安心を確保している | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・家族との連絡を出来るだけして、要望を聞いている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・本人・家族の思いをしっかりと聞かせて頂き、何を必要としているのか見極め支援している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・本人の出来る機能を活用し、一緒にする事で役に立っているとの思いを大切にしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・年に4回お便りを出したり、現状を報告、家族によっては助言を頂くこともある | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・今迄地域でお世話になった方に会いたいという意向を聞き会いに行く事を約束、精神的に落ち着かれる | リビングでは気の合う人同士の配置に配慮する。病院受診の際に地元の馴染みの人との出会いがあったり、ホームの近くの野菜市場で顔なじみになる等、色々の機会を大切にして、継続的な交流が出来るよう働きかけている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・日常、利用者同士が仲良くできるようソファや縁台と一緒に座り話をしてもらっている ・両ユニットの利用者が、行き来し、交流をしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・移られた他施設に訪問し、面会して様子を伺っている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・日々の生活の中で言葉や表情、態度等から本人の気持ちを確認出来る事もある ・話が出る時間をつくり、希望を聞き出している | 担当制により、職員は利用者や家族とのコミュニケーションを重視するようになってきている。男性職員は、入浴時の一对一の対話の中に色々な思いを発見することが多いので、特に大切にしていると話していた。 | グループホームの場合、認知症ケアの基本は「心のケア」だと思う。職員は出来るだけ利用者の傍らで見守りや語らいの時間を増やして、心の通いを持ってもらいたいと思う。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・家族から本人の情報を得ることにより今迄の生活歴が把握できている ・本人から生活歴を聞き、暮らしの把握をしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・日々の生活の中で言葉や表情、態度等から本人の気持ちを確認出来る事もある ・話が出る時間をつくり、希望を聞き出している生活の中から、利用者一人ひとりの才覚、行動がわかりその人の有する力量が把握できている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・家族の意向や意見は聞かせていただき、活かすようにしている ・本人からの聞き取りにより意見を反映している | 管理者は、日常生活記録を充実させることを徹底し、利用者の担当職員が中心となって観察して情報提供し、全職員でケアマネジメントしている。水分補給量や生活リハビリメニューが具体的に組み込まれ6カ月毎に見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・職員は日々の状態に情報を共用しプラン通りにできたかを記録している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・1人ひとりを支える為に、日々努力しているが柔軟な支援やサービスの多機能化まではいかない | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・訪問理容サービス利用 ・ボランティアの訪問 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・家族が同行できない時は、職員が対応している ・かかりつけ医も家族の希望通り ・往診も可 | 母体医院から医師の往診と看護師の派遣があるので、医療機関、家族、ホームの連携がしっかりしている。従来のかかりつけ医を基本としているが、遠隔家族が多いので、希望により母体医院に変わることもある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ・週1回、只友医院より看護師に来て頂き、健康チェック、健康相談にのってもらっている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ・入院時は家族に様子を尋ねたり見舞いに行き状態把握している ・病院主治医と連携をもち、健康管理をおこなっている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・家族の意向に沿って可能な限りの対応を行うことを話している ・職員間でどこまで対応できるかを話し合い、主治医と相談をする | 基本的には、毎日の医療行為が必要になった時点で主治医と相談して決める方針は変わらない。現在は軽度の利用者が大半であるが、今後の社会情勢の変化を踏まえて、職員でどこまで対応できるかを話し合う必要性を感じている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・マニュアルを作成 ・消防署員に來所して頂き、応急手当や初期対応の訓練を行っている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ・防災訓練マニュアル作成 ・消防署の協力により避難訓練、防火訓練を年1回行っている ・毎月の防火訓練の実施 | この地方特有の「広戸風」の備え、窓に飛散シートを貼り、風雨中は利用者全員をホールで過ごす対策がある。地域に向けての電話と拡声器での通報体制を整えている。毎月の防火訓練では防火器具の使い方や整備・点検等を行っている。リビングや居室には転倒物を排除した備品を備えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の内容や語調等により利用者を傷つけないよう注意している ・トイレ対応ではさりげない声掛けや対応に気をつけている | 管理者が「自分の立場に置き換えてみよう」と提唱している中で、職員は尊厳ある姿を具体的に確認できるようになっている。プライバシー保護については具体的な状態をリストアップし、職員が共有している。現場では、丁寧且つ尊厳を持った対応が出来ていた。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや希望が職員の声掛けによって自己決定できるようにしている ・意志の疎通が困難な方は表情や仕草等から理解する | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、食事、行事等は当所の都合で決める事があるがそれ以外は、1人ひとりのペースに合わせるようにしている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問理容で、ヘアースタイルは希望を話し、対処している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の下拵えや食後の後片付けを手伝ってもらっている ・同じ食卓を囲んで同じ物を頂いている ・オープンキッチンの為、音や匂い等から食事を楽しみにまっている | 一日三食を当番職員が利用者の顔を見ながら作っている。手作りの暖かい、日替わりメニューが食卓に並ぶことは嬉しいことである。週1回の体重測定、塩分調整は厳格に管理されている。利用者は元気で、全員が自立、完食できていることがホームの嬉しい現状である。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理票をつける事で1日の摂取量、水分量が把握できている ・食事量が個々によって差があるので配慮している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | <ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、口腔ケアを行っている ・義歯のない方もうがいを行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ・自立に向けての声掛けとも守りを重視し、必要な時は一部介助する | 下剤の服用方法の変更・就寝後の声掛けの廃止・日中の活動量の確保・ズボンのチャックにフックを取り付け、ズボンの上げ下げの容易さを図ったことによる排泄問題の解消、又、介助排泄から居室のポータブル使用に切り替えて、自然排泄が出来たこと等、職員の創意、工夫で良い現象が多く見られている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ・個々の排便パターンのチェックお行う ・自然排便に向けて朝のセンナ茶、一日の水分量をみながらセンナ茶を飲用している ・腹部マッサージや体操で体を動かしている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | ・楽しみにしている入浴は適温(40度)にしてゆっくり話を聴くようにしている ・入浴日のサイクルは大体決まっているが個々の状態合わせている | 浴室は清潔で明るく、ゆったりとしたスペースに、転倒や不安感の軽減のための手摺や補助具が整備されている。三日に一度の入浴実施で、40度の温度を保ち、少し長めでゆったりと満足してもらえるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ・就寝前の飲茶 ・出来るだけ本人の気に入った寝具を使用 ・本人の希望や状態によってはエアコン、電気毛布を使用する | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ・一人ひとりに適している服薬方法をとっている ・薬の変更は申し送りにより全員に伝わるようにしている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ・季節ごとの提供、殆どの方が歌好きでうたっている。 ・毎年開催される地区文化展に出品するため作品づくりをしている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ・時々散歩に出かけている ・季節ごとの行事には家族の協力もあり、地域の催し物に参加する事がある ・実家をみたいとの希望に対応している | 寒い季節でも、南に面した広いウッドテラスの日だまりで外気欲が出来る事が外出気分を満たしている。好季節には一人でぶらりと出て楽しめる場所でもある。職員と一緒に近くに野菜を買いに出掛ける楽しみもある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ・通帳のみで出し入れしている 必要な物は、家族に相談しその都度購入している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ・相手の都合もあるので最初は職員が電話して、居室でゆっくり話をさせていただく ・手紙は本人が希望すれば代筆する事もある | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・季節の花や草を飾っている ・廊下、ホールには季節ごとに利用者と一緒に作成した壁飾り等で季節感を出している | リビングには、2つのテーブルと小型のソファが壁面に沿って設置してあるので、空間が広く感じられる。利用者が陽だまりで「ここは陽がよおあたる」と言って寛いでいた。両棟を結ぶウッドテラスは、日々の活動で多目的に使用できる共用の場所である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ・ソファで居眠りなどしてくつろいだ時間を過ごされている ・テラスの縁台に座り、花を眺めたり、水遣りの世話をしている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・本人が作成した壁飾りやぬり絵を居室に飾る ・馴染みの物を持って来てもらったりしてリラックスできるようにしている | ベッドと脇机が備え付けられ、クローゼットがある分広さを感じる。ベッドの位置や転倒物にも配慮しており、自分の作品を飾って楽しんでいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ・共同で使用する場所、私物にはそれぞれ内容が分かるように掲示し、混乱予防と安全に配慮している | | |